

明治大学史



Vol. 1
2 OCT. 2006

Center for the History of Meiji University Newsletter



企画展「明大生と学徒兵」（2006年7月1日～8月18日 アカデミーコモン特別展示室）のようす

ニュース・ヘッドライン

特集・大学史活動と展示

創業者・卒業生展を各地で開催

岸本辰雄展／中田正子展／宮城浩蔵
写真展

第1回企画展 明大生と学徒兵

センター業務記録

『尾佐竹猛著作集』(センター監修・ゆま
に書房刊)刊行中！

特集 大学史活動と展示

大学史資料センターでは、近年さまざまな形で各種の展示を実施しています。各展示の内容とその意義について紹介します。

創業者・卒業生展を各地で開催

センターでは、2005年度から今年度にかけて、創業者や卒業生ゆかりの地域において企画展の共催および展示協力を行いました。

一連の展示では、関係各地と明治大学との

関わりを広く知ってもらうとともに、大学と地域との間の連携を深めることをねらいとしています。

① 鳥取市歴史博物館 「岸本辰雄と明治大学—鳥取出身士族の挑戦」 (2006年3月4日~26日 同館との共催)



ギャラリートークのようす (2006年3月4日)

その皮切りとして開催されたのが本展示です。鳥取市は明治大学創立者の一人で初代校長をつとめた岸本辰雄 (1851-1912) の生誕地です。センターではこの展示に先立ち2004年5月、鳥取市立図書館との共催による岸本辰雄写真展を開催しました。

今回の展示は、鳥取に残されている岸本関係資料に、センターの所蔵する資料も加え、資料総数140点あまりを数える大規模なものとなりました。創立者ゆかりの地において展覧会を開催することは、他の大学を含めてほとんど例がなく、明治大学にとってもはじめての試みでした。その模様は『日本海新聞』などの地元紙でも報道されました。

② 同 「日本初の女性弁護士 中田正子」 (2006年4月15日~5月21日 同館主催 センター展示協力)

①に引き続き、鳥取市歴史博物館主催・センター協力で実施されたのが同展示です。

中田正子 (1911-2002) は、明治大学女子部在学中の1940年に、日本ではじめての女

性弁護士となった三名のうちの一人です。ちなみにこの年、中田とともに弁護士となった久米愛、三淵嘉子も、明治大学女子部を卒業



御子孫の方々と (右から2・3人目)

しています。

中田は1945 (昭和20)年に、夫の実家のある鳥取市に転居しました。その5年後、市内馬場町に法律事務所を開業し、以降2002年に没するまで生涯弁護士として活動を続けました。中田は鳥取県弁護士会会長、日本弁護士連合会理事等の要職も歴任し、日本における女性弁護士の歴史に大きな足跡を残しました。

展示会では鳥取市歴史博物館に寄託された関係資料や遺品とともに、センター提供の明治大学女子部関係資料も多数観覧に供し、中田の生い立ちや活動を回顧しました。

なお、同展開催中の5月13日、鳥取県民文化会館の一角で、校友会鳥取県支部主催による、「明治大学創立者・岸本辰雄先生銅像頭彰碑」の除幕式が挙行されました。その除幕式に先立ち、明治大学関係者が同展を見学しています。



除幕式風景 (2006年5月13日)

③天童市立図書館「宮城浩蔵写真展」
(2006年7月10日～15日 センター主催、天童市教育委員会後援)



展示のようす

明治大学創立者の一人、宮城浩蔵（1852-1893）は、天童藩（現山形県天童市）藩士の家に生まれました。

センターには、宮城のさまざまな活動に関する資料が所蔵されています。今回、宮城の生涯に焦点を当てつつ、草創期の明治法律学校の歴史にも触れることを目的として、天童市立図書館の一室を使用して写真パネル展示を行いました。来年度には、天童市旧東村山郡役所資料館にて「宮城浩蔵展」（明治大学と天童市との共催。センター主幹）を開催する予定です。

センターでは地域と大学との橋渡しとなるこうした展示や、シンポジウムをはじめとする各種事業を、来年度以降も継続的に実施していく計画を立てています。

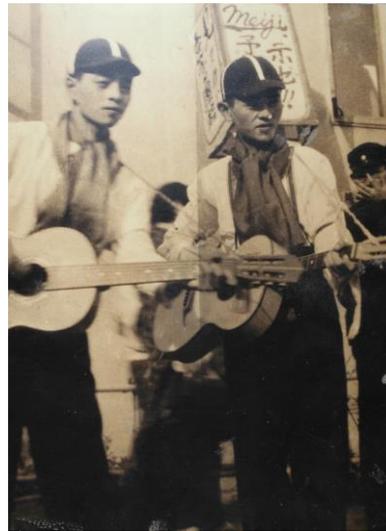
第1回企画展 明大生と学徒兵

2006年7月1日～8月18日まで、アカデミーコモン内明治大学博物館特別展示室にて、標記展示を開催しました（大学史資料センター主催）。

今回の展示の動機はふたつあります。ひとつは十五年戦争と、その時代の教育についての記憶が風化しつつあることへの危機感です。もうひとつは校友の方々からの受贈資料をぜ

ひ公開したい、という点でした。

展示では学内外関係者の受贈物を中心に、



予科祭特別出演風景（1942年・右側が武石益則）

いわゆる十五年戦争下における学園の状況と、ある戦没学徒の肖像を紹介しました。

展示は二部構成の形をとっています。第一部におい

ては、戦時体制下が強まるなかで、明治大学が

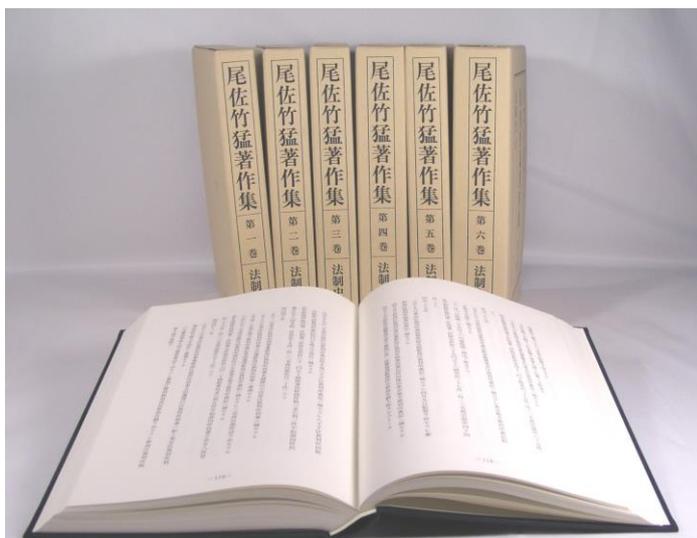
どのような対応をしていったのかを示しました。続く第二部では、武石益則（1921-1944）という戦没学徒の生涯を紹介しました。展示ではその幼少年時代から、明治大学を繰り上げ卒業となって応召し、フィリピンで没するまでを辿っています。

第二部展示の大きな特色となっているのが、彼が膨大に残した慰問演芸隊関係資料群です。彼はドラマ・クリエイターとしてすぐれた才能を持っていました。明治大学在学中に仲間と語らって慰問演芸隊を結成し、各地で公演を行いました。今回は武石自筆のシナリオ稿本や、舞台風景などの写真資料も豊富に展示しました。なお、武石関係資料の資料は、広島市の富樫隆夫・富樫直子夫妻からご寄贈を受けたものです。

情報のご提供について(お願い)

当センターでは明治大学史に関する資料をひろく収集しております。明治大学史関係資料や、各種情報などがございましたら、どのようなことでも結構ですので、センターまでご一報下されば幸いです。

明治大学史資料センター監修 ゆまに書房刊 尾佐竹猛著作集(全24巻)完結!



未刊行資料を含む、初の体系的著作集。

【本書の特色】

◆初の尾佐竹猛の体系的著作集

1908～1944年にかけて刊行された尾佐竹猛の主要著作を網羅。

◆未刊行資料・直筆原稿を収録

「海南法権史」「海南流刑史」「明治維新下3」など、存在すらほとんど知られていなかった未刊行資料を収録。

◆主要著作を四編に分類・構成

著作を「法制史」「憲政史」「維新史」「文化・地方史」の四編に分類し、体系的に各巻を構成。

◆詳細な解題を各編に付す

各編の初巻に、明治大学の第一線で活躍している研究者による、解題を付す。

* 本著作集についてのお問合せは、株式会社 ゆまに書房(〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6 電話 03-5296-0491 FAX 03-5296-0493)までお願いいたします。

ニュースレター 明治大学史

発行 2006年10月2日

編集・発行 明治大学史資料センター事務室

住所 101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086

mail history@mics.meiji.ac.jp

URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>

今まで刊行していた『大学史資料センター事務室報告』をリニューアルし、論文・資料編については『大学史活動——年報・明治大学史』(年1回刊行)に集約し、彙報やお知らせについては本誌『ニュースレター 明治大学史』として発行することとなりました。今後より一層内容の充実を図っていきたいと思います。お気づきの点がありましたら、忌憚のない御意見をお寄せ下されば幸いです。

(大学史資料センター事務長 鈴木 秀幸)